

2022 年 2 月 22 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士論文

精神看護学における教授プログラム開発に向けた研究
～対象者のストレングスに着目した看護ケア教授プログラムの検討～

A Research for the Development of Teaching Programs in Psychiatric Nursing
～A Survey of A Nursing Care Teaching Programs that Focus on Patient's Strengths～

19MN305

竹林令子

要旨

目的：本研究の目的は、精神看護学における対象者のストレングスに着目した看護ケア (Nursing Care Focusing on Patient's Strengths、以下 NCFPS)の教授活動について実態調査と内容分析を通して NCFPS を活用した教育の充実に向けた課題と対策を整理することである。

方法：国内の看護系大学(285 課程)において精神看護学の教授活動に携わり、科目責任者として授業デザインを行っている教員各 1 名に質問紙調査を行った。精神看護学に関する科目の履修学年次、NCFPS 教授活動時間数は、基本統計量を算出した。精神看護学教育内容と NCFPS 教授活動時間数については、スピアマンの順位相関係数を用いて分析を行い、統計解析には SPSSVer.27 を用いた。自由回答項目は、Berelson の内容分析の方法論を参考にした看護教育学における内容分析(舟島,2002/2018)を用いて質的帰納的に分析を行った。聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号 20-A041)。

結果：回収数は 285 課程中 77 校であった(回収率 27%)。90%以上の項目に回答がみられた、72 校の回答を分析対象とした(有効回答率 93.5%)。教授活動は 71 校が実施しており、講義・演習における教授時間は、90 分未満 22 校、90～180 分未満 25 校、180 分以上 24 校だった。【ストレングスモデル】を実践モデルとして最も多く用いていた。NCFPS 教授活動時間と講義演習における精神看護学に関する内容の教授時間は、【精神疾患をもつ人の入院から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、実践する】【精神疾患をもつ人の地域支援について、関係者と協働する必要性と協働する方法について】の項目において有意に相関がみられた($p < .01$)。自由回答項目より得た回答を内容分析した結果、教授活動を促進している要素として 21 カテゴリー、課題点として 16 カテゴリーを形成した。分析結果から、短い教授時間で効果的かつ効率的に教授活動を行う方策を検討する必要性が生じたため、インストラクショナルデザイン理論(ID)を用いて教育分析を行った。

結論：NCFPS 教授活動は充実した教授活動までに至っていないことが示唆された。教授活動促進のためには、1.効果・効率的に教育ゴール達成するために ID 理論 を一助とする、2.適切な教育ゴール設定とゴール達成に向けて学習者が習得すべき目標行動を明確にする、3.自己学習で習得すべき内容と教授時間内の学習内容の吟味が必要という示唆を得た。評価基準、教授方略を明確にすること、精神看護学で用いている看護理論・実践モデルを検証・評価し、NCFPS 実践モデルを精錬することが今後の課題として明らかになった。